

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

安全安心な教育環境を保護者や地域の方とともに作り、生徒に確かな学力などの社会生活で役立つ能力を育成する学校をめざす。

- 1 自己実現のために、全教育活動を通して「確かな学力」などの社会的実力を育む（目標のあるキャリア教育）
- 2 人権尊重の精神に基づく安全安心な学校生活のなかで多様性を育む（自他を大切にする意識と力の育成）
- 3 保護者や地域との充実した連携と協力を図りながら教育活動を行う（地域社会と協力する「開かれた学校づくり」）

2 中期的目標

1 確かな学力などの社会的実力の育成

- （1）わかりやすく魅力のある授業づくりをめざす。

ア 主体的・対話的で深い学びを実現するために、「SN 勉強会」を中心として観点別学習状況評価をふまえた授業改善に取り組み、指導と評価の一体化を図る。

イ 授業観察・授業アンケートなどにより具体的な改善点を確認研究するとともに、1 人 1 台端末等 ICT の有効活用により、授業力の向上を図る。

※授業アンケートの教員平均評定の向上 令和8年度には3.5 以上をめざす（R3：3.3、R4：3.4、R5：3.4）

※令和8年度には生徒対象学校教育自己診断アンケート「教え方を工夫した授業」の肯定的評価68%以上をめざす。

（R3：59.8%、R4：64.9%、R5：61.8%）
- （2）生徒の多様な進路実現に向けて、組織的な取り組みを行う。

ア 生徒が目標とする進路を実現できるように、関連情報環境を整備し、基礎学力重視の補習、発展的な進学講習などを充実させる。

イ 「体育・芸術創造コース」などキャリアを形成する本校の特色ある教育活動を発展充実させて、社会的な実力の育成を行う。

※令和8年度には生徒対象学校教育自己診断アンケート「進路や生き方について学ぶ機会」の肯定的評価85%以上をめざす。

（R3：83.6%、R4：83.0%、R5：82.9%）

2 安全安心な学校生活を通しての生きていく力の育成

- （1）生活指導の充実を図り、生活習慣の確立と規範意識向上、病気予防と環境美化に向けた取り組みを推進し、個々の生徒への支援体制を整備充実させる。

ア 生活指導を通して、必要なモラルやマナーを身につけることの大切さを意識させることにより、社会生活で必要な力を育成する。

イ SC を活用した養護教諭・教育相談委員会の取組により、相談機能を活発化して、個々の生徒への支援体制を充実させる。

※令和8年度には生徒対象学校教育自己診断アンケート「命の大切さや社会のルールについての学び」の肯定的評価78%以上をめざす。

（R3：71.5%、R4：76.1%、R5：75.8%）
- （2）人権尊重の意識を育て、特別活動等への主体的参加を促進することで自己肯定感を養う。

ア 様々な人権問題に関する正しい理解を深めることで人権感覚を養い、自他を尊重する教育を総合的に推進する。

イ 特別活動や部活動などを通して、楽しく充実した学校生活を送ることで自己肯定感を育てる。

※令和8年度には生徒対象学校教育自己診断アンケート「学校行事への積極的参加」の肯定的評価80%以上をめざす。

（R3：79.8%、R4：79.0%、R5：79.0%）

3 教職員の働き方改革の推進と学校組織の円滑な運営

- （1）教職員の業務内容に関する合理化を行い、可能な範囲での情報共有面での電子化を図ることで、働き方に関する改革を進めていく。

※時間外勤務に関わる産業医との面談が必要な教員数を令和8年度には10 名未満になることをめざす。（R3：10 名、R4：13 名、R5：11 名）
- （2）教職員の学校運営への参画意識の醸成

4 保護者・地域と協力した学校づくり

- （1）PTA 活動を充実させ、地域との交流を部活動、学校行事、貢献活動などを通して充実させる。

ア PTA 行事参加、「西高カップ」、地域イベントへの貢献、泉北高等支援学校との授業交流等を発展継続させる。
- （2）取り組みを PTA 新聞、校長ブログ、学校説明会、HP などを通して広報することにより、保護者や地域の本校教育活動への理解を深める。

※令和8年度には保護者対象学校教育自己診断アンケート「教育方針のわかりやすい伝達」の肯定的評価75%以上をめざす

（R3：71.2%、R4：68.4%、R5：72.3%）

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
○「中期的目標1 確かな学力などの社会的実力の育成」について、以下の項目を検証した。 【学習指導等】 「授業はわかりやすい」生徒 65.3%（昨年度比 7.1%増） 保護者 39.0%（昨年度比 2.4%増） 「教え方に工夫をしている先生が多い」生徒 66.3%（昨年度比 4.5%増） 教職員の意識については「所属教科では生徒の実態をふまえ、指導方法の工夫・改善を行っている」が肯定的意見 85.7%（昨年度比 11.3%増）、	【第1回学校運営協議会（令和6年6月21日）】 （学校経営計画の内容及び教育活動に関わって） ○学校の現在の状況報告から ・ 生徒指導の問題（遅刻件数や懲戒件数）が多くなっている点について → 受け身にならず、学期はじめのタイミングなどで、生徒に働きかけるような取組みを明確に打ち出してみてはどうか？ また、生徒一人ひとりが活躍できるような場の創出も必要。 ・ 授業改善の取組みについて → 安全・安心な学校は授業が充実している。生徒が「楽しい」という授業の実践にさらに力を入れてほしい。 ・ 働き方改革について → 業務の多忙化を改善するには、行事や会議、様々な取組みなどについて、弾力的

「所属教科では到達度の低い生徒に対する学習指導を工夫し、取り組んでいる」が同 73.8％（昨年度比 1.7％増）、「所属教科では学習意欲の高い生徒に対する学習指導を工夫して行っている」が同 78.6％（昨年度比 11.2％増）であった。また、「学習の評価は、テストの得点だけでなく、生徒の努力や授業に取り組む姿勢等を含めて総合的に行われている」肯定的意見が生徒 75.08％（昨年度比 2.2％増）保護者 72.81％（昨年度比 0.7％増）であった。今年度の授業力向上のための様々な取組みの成果が出ている。引き続きこれらの取組みを継続していきたい。		に計画の見直しを行い、省力化を図ることが重要。	
【進路指導等】 「進路についての情報提供も含め、将来の進路や生き方について考える機会がある」 生徒 81.0％（昨年度比 1.9％減） 「学校は将来の進路や職業などについて、適切な指導を行っている」 保護者 74.2％（昨年度比 3.8％減） 教職員の意識は「生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい情報提供を行っている」の項目が 78.6％（昨年度比 2.8％減）、「生徒の望ましい勤労観、職業観を持つことができるよう、各学年に応じた系統的なキャリア教育が、行われている」の項目が 73.8％（昨年度比 8.7％増）であった。保護者・生徒ともに肯定的な数値が下がった。さらに教職員は系統的なキャリア教育の必要性を強く感じているのか、肯定的な意見が昨年度以上に低い数値となった。原因の分析と具体的な取り組みの検討が必要である。		【第 2 回学校運営協議会（令和 6 年 12 月 20 日）】 ○授業見学から ・ 3 教科の授業見学を通して → 授業は準備に 7 割を割くべき（アウトラインをしっかりと作る）教員の力量は年齢とともに向上していくわけではないので努力と工夫を継続してほしい。 ○学校の現在の状況報告から ・ 9 月の猛暑化の体育祭実施について → 夏場の行事の暑熱対策について、実施における気温や湿度に関するガイドラインを学校としても作っていく必要があるのではないかと。	
○「中期的目標 2 安全安心な学校生活を通しての生きいく力の育成」については以下の項目を検証した。 【生活指導・人権教育等】 「学校は楽しい」 生徒 85.4％（昨年度比 1.0％増） 保護者 79.9％（昨年度比 1.6％増） 「校則など、学校生活についての先生の指導には納得できる」 生徒 48.1％（昨年度比 1.8％増） 「あなたは、校則や学校でのマナーを守っている」 生徒 89.9％（昨年度比 0.6％減） 「校則や社会的ルールの指導など、学校の生徒指導の方針に共感できる」 保護者 75.0％（昨年度比 0.4％減） 「本校は、生徒の問題行動がおきたとき、組織的に対応できる体制が整っている」 教職員 69.0 ％（昨年度比 12.4％減） 「先生は、いじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」 生徒 48.5％（昨年度比 1.3％減） 「学校はいじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」 保護者 36.5％（昨年度比 4.0％減） 「いじめ（疑いを含む）が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができる」 教職員 69.0 ％（昨年度比 14.7％減） 「保健室や相談室等で、気軽に相談できる先生がいる」 生徒 42.1％（前年度比 4.5％増） 「生徒は気軽に先生に相談できる」 保護者 66.7％（昨年度比 2.1％増） 「本校は生徒が学級担任以外の教員とも相談できるよう、教育相談体制が整備されている」 教職員 81.0 ％（昨年度比 9.6％増） 「学校の部活動は、盛んである」生徒 85.1％（昨年度比 5.0％減） 「学校は部活を積極的にすすめている」 保護者 74.0％（昨年度比 7.5％減） 「命の大切さやルールについて学ぶ機会がある」 生徒 79.2％（昨年度比 3.4％増） 「学校は、人権を尊重し、生命を大切に作る心や社会ルールを守る態度を育てようとしている」 保護者 68.6％（昨年度比 0.3％増） 学校生活についての満足度は、生徒・保護者ともに一定高い数値となっているものの、生活指導（特に校則）については生徒や保護者だけでなく教職員においても肯定的な数値が下がる結果となった。納得感のあるルール作りや指導体制の見直しが必要である。また、いじめ事象への対応につ		【第 3 回学校運営協議会（令和 7 年 2 月 21 日）】 ○学校教育自己診断結果から ・ 生徒の満足感が一番大切。保護者の意見に振り回されないように。「学校が楽しい」「授業が楽しい」という実感を持たせるとともに、生徒が積極的に関わる場面を多く作るべき → 生徒の自主性が堺西高校の良いところ。来年度も生徒が主役となる場면을積極的に作っていききたい。 ○令和 6 年度 of 教育活動の振り返りから（進路指導、生活指導を中心に） ・ 自転車のマナーが心配。事故に巻き込まれる可能性あり → 交通安全教室や安全週間をはじめ、引きつづき、自転車マナーも含めた交通安全への意識を高める取組みを行っていききたい。 ・ 5 年ぶりに再開した持久走大会について、「寒い時期での実施はその後にある期末考査に影響があるのでは」など、保護者から心配の声が上がる。 → 生徒の命や健康を考えることは大切だが、「行事をなくせばいい」というのではなくやり方を工夫するべき。9 月の西高祭も暑さ対策への検討が必要。	

いても昨年度同様に取り組んでいるにも関わらず、肯定的な数値が下がっている点について分析が必要である。一方教育相談体制については来年度の支援委員会の立ち上げに向けた取組みも含め評価されている。 ○「中期的目標 4 保護者・地域と協力した学校づくり」については以下の項目を検証した。 「学校の PTA 活動や後援会活動は活発である」 保護者 45.9%（昨年度比 0.8%増） 「学校は、保護者や地域の人たちと交流する機会を持っている」 保護者 45.7%（昨年度比 2.4%増） 教職員の意識は「教職員は PTA 主催行事や共催行事に積極的に参加している」の項目が 33.3%（昨年度比 3.1%増）、「教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている」の項目が 69.0%（昨年度比 15.5%増）、「積極的に保護者や地域と交流し、奉仕の体験活動やボランティア活動が活発に行われている」の項目が 45.2%（昨年度比 12.6%増）であった。PTA 活動や地域連携については、昨年度以上に積極的に取り組むとともに、その取り組みの周知のため、広報活動に力を入れてきたことが評価されたと考える。地域連携については本校にとって重要な取り組みといえるので今後も取り組みを推し進めたい。 ◎総合的な提言として 1. 学習環境のさらなる充実 ◦ 予習・復習の習慣づけの強化と学習の振り返りの支援 ◦ 教員の指導力の向上と生徒の学力向上 2. 学校行事・部活動の活性化 ◦ 生徒会活動の支援の強化と行事企画への生徒の関与を向上 ◦ 部活動のサポート体制の見直しと活動の質の向上 3. 進路指導と ICT 活用の改善 ◦ 進路指導の具体性の向上によるキャリア教育の充実 ◦ ICT 活用のための研修の実施と授業での活用事例の増加 4. いじめ・安全対策の見直し ◦ 相談窓口の周知を徹底し、安心して相談できる環境を整備 ◦ いじめ防止プログラムや安全対策の研修を通して、迅速な対応を可能に 5. 教職員の意見を反映した学校運営 ◦ 教職員間の意見交換を促進し働きやすい環境を整備 ◦ 研修や情報共有の場を増やし、教育の質を継続的に向上	
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 5 年度値]	自己評価
1 確かな学力などの社会的実力の育成	(1) 教え方を工夫した授業づくりの推進 ア 本校にふさわしい授業の検討	(1) ア 本校生徒の実態をふまえたうえで、引き続き学習内容がわかりやすく、生徒の自己肯定感の向上に結びつくような授業のあり方を追究し、教職員研修会「SN 勉強会」の内容を充実させる。	(1) ア ・年間 2 回の授業アンケートで平均評定 3.38 以上 [3.38] ・SN 勉強会の全校規模での取組み事業 3 回以上の開催（研究授業など） [3 回]	(1) ア ・2 回の授業アンケートの平均評価は 3.41 であった。(○)
	イ 具体的な授業改善への取組	イ ・リーディング GIGA ハイスクールの指定を受けて、効果的な場面での 1 人 1 台端末を中心とした ICT 機器の活用、「アクティブ・ラーニング」の視点に基づく学習活動などの充実を図る。そのことを通して、工夫ある教科指導に基づく授業づくりに取り組む。 ・教員相互の授業見学週間を年 2 回設定するとともに校内一斉研究授業を行い、授業改善	イ ・生徒対象学校教育自己診断「工夫のある授業」の肯定的評価 65%以上 [61.8%] ・生徒対象学校教育自己診断「1 人 1 台端末等 ICT 機器活用」の肯定的評価 65%以上 [64.8%] ・教職員対象学校教育自己診断「授業方法等につ	イ ・生徒対象学校教育自己診断「工夫のある授業」の肯定的評価は 66.3%で目標を達成した。授業見学を通して ICT 機器をはじめ、対話や相互作業など主体的生徒が取り組む場面が増えてきているのが実感できる (○) ・生徒対象学校教育自己診断「1 人 1 台端末等 ICT 機器活用」の肯定的評価は 62.4%で目標の数値には至らなかった。今後 ICT 機器を使用した授業形態に慣れている生徒たちが入学してくるので新たな仕掛けを次年度考えたい。(△) ・教職員対象学校教育自己診断「授業方法等につ

府立堺西高等学校

	(2) 進路実現に向けた組織的な取組の充実 ア 進路と生き方について学ぶ機会 イ 特色ある教育による実力を持った社会的人材の育成	への取組みを推進する。 (2) ア 外部会場、外部講師等による進路説明会の実施や就職のための面接指導など、自己の進路と生き方について考えさせながら、個々の生徒の希望に応じたきめ細かな進路指導を行う。また、難関大学に挑む生徒についても具体的な対応を検討する。 イ 大阪万博開催を意識して、キャリア教育の観点をふまえたパフォーマンス成果発表の機会(例「アートスタジアム」)を設けて、コース授業における取組みを促進する。	いての教職員間の研修・研究機会の積極的確保」の肯定的評価 70%以上 [62.8%] (2) ア 生徒対象学校教育自己診断「進路や生き方について学ぶ機会がある」の肯定的評価 84%以上 [82.9%] イ 「体育・芸術創造コース」生徒によるパフォーマンス発表機会を年間で2回以上設ける。[4回]	の肯定的評価は 81.0%で目標を大きく上回る結果となった。これらの取組みを通して教員の授業改善の意識は確実に向上しているので引き続き取組みを続けていきたい。(◎) (2) ア 生徒対象学校教育自己診断「進路や生き方について学ぶ機会がある」の肯定的評価は 81.9%と昨年度並みの数値に留まった。例年と遜色ない取り組みをしてきたが生徒のニーズが変化しきていることも考えられる。次年度に向けて新たな取組みも含め検討したい。(△) イ 「体育・芸術表現創造コース」生徒によるパフォーマンス発表の機会は、西高祭「文化の部」「体育の部」でのコースごとの発表や11月の外部ホールでの「アートスタジアム」、2年生体育コース生のスポーツ概論研究発表など計画通り実施できた。(○)
2 安全安心な学校生活を通しての生きていく力の育成	(1) 生活習慣の確立と規範意識の向上、支援体制の整備充実 ア 規範意識などの社会生活に必要な力の育成 イ 個々の支援体制の充実 (2) 人権問題の理解と自己肯定感の養成 ア 人権問題理解による自己尊重教育 イ 特別活動等を通しての自己肯定感の育み	(1) ア ・社会生活で必要となるマナーやルールを守るという規範意識を育むために、生徒の納得感に配慮しながら、身だしなみ指導や遅刻指導、交通安全指導などを行う。 ・自分の健康のみならず他者の健康も守らねばならないという意識を育み、感染症、その他の病気予防対策などの健康安全行動に取り組ませる。環境美化活動としての清掃指導の充実を行う。 イ 「いじめ」事象などが起こった場合に、個々のケースに迅速に対応できる能動的な支援組織の確立を図るために、整備したマニュアルに基づいて、SCやSSWを活用した教育相談体制を充実させる。 (2) ア 差別等で苦しむ人々がいるという事実についての認識を養いつつ、自分と他者を大切にする精神を育むために、様々な人権に関する課題を取りあげたLHRなどを実施する。 イ 他者ととともに課題の達成に至ったよろこびや有用感、自己肯定感を養うために、本校の大きな特色である部活動や行事の盛んさ、活発さをいっそう発展充実させる。	(1) ア ・生徒対象学校教育自己診断「自身の校則、マナー遵守」の肯定的評価 90%以上を維持[90.5%] ・年間遅刻数 1300 件未満 [1652 件] ・病気の予防対策、清掃活動の充実等を促すプリントを相応しいタイミングで10回以上配付する。 [12回] イ 教職員対象学校教育自己診断「学校の教育相談体制の整備」の肯定的評価 75%以上 [71.4%] (2) ア 生徒対象学校教育自己診断アンケート「命を大切にする人権関連」の肯定的評価 78%以上 [75.8%] イ 生徒対象学校教育自己診断アンケート「学校行事への積極的参加」の肯定的評価 80%以上 [79.0%]	(1) ア・生徒対象学校教育自己診断「自身の校則、マナー遵守」の肯定的評価は 89.9%で微減したが依然として高い数値を維持することができているが、一方で年間遅刻数は3261件と昨年度より大幅に増加している。様々な要因が考えられるが、校則の見直しも含め検討が必要な状況となっている(△) ・「保健だより」として、病気の予防対策や清掃活動への呼びかけなど、11回にわたり生徒にプリントの配付を行った。また、保健委員で歯に対する様々な情報について調べものを校内に掲示し、歯科衛生についての啓発を行った。(○) イ 教職員対象学校教育自己診断「学校の教育相談体制の整備」の肯定的評価は 81.0%で昨年度の数値から 9.6%上昇し目標の数値を大きく上回ることができた。教育相談委員会での生徒情報の共有など、丁寧な取り組みができている結果である。(◎) (2) ア 生徒対象学校教育自己診断アンケート「命を大切にする人権関連」の肯定的評価は 79.2%で目標を達成することができた。取り上げるテーマについても時代背景や生徒のニーズも踏まえたものとしていることも影響していると思われる。(○) イ 生徒対象学校教育自己診断アンケート「学校行事への積極的参加」の肯定的評価は 80.6%で目標を達成することができた。部活動だけでなく様々な学校行事を通して生徒の活躍の場を積極的に作った成果である。(○)

府立堺西高等学校

3	教職員の働き方改革の推進と学校組織の円滑な運営	(1) 教育活動とのバランスに配慮しながらの校務の合理化による働き方の改革 (2) 教職員の学校運営への参画意識の醸成	(1) 本校は多様な教育活動をそれぞれ全面的に推進する全人教育を特色としてきた。そのため一人の教員が担う業務也多岐にわたっている。そこで、業務内容を生徒などの実態に即して教育活動に必要な度合いに分けて、整理したうえで、業務量の検討を通しての精選と簡素化、組織体制の強化を進める。また、可能な範囲で情報共有面における電子化の促進、一斉退庁日の厳格化など、その対策を産業医と連携しながら進めるとともに、部活動方針の遵守を図ることで働き方を見直し、労働時間の適正化を行う。 (2) トータルプラン検討委員会を発展的解消し、新たに「将来構想検討委員会」を立ち上げ、本校の今後の方向性や課題の解決を検討するとともに、教職員の声を学校運営に反映させるため「idobata」を設置する。	(1) 長時間にわたる時間外勤務に関わって、産業医による面談が必要な教職員の数を年間で今年度よりも減少させる(10名以下)。 [11名] (2) ・教職員対象学校教育自己診断「学校運営に教職員の意見が反映されている」の肯定的評価 50%以上 [30.2%] ・教職員対象学校教育自己診断「教職員の適正・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある」の肯定的評価 50%以上 [25.6%]	(1) 産業医による面談が必要な教職員の数は12月末時点で10名(○)。長時間労働については、業務の効率化や部活動指導方針の遵守など様々な角度からの取り組みが必要である。できる取り組みを継続して行いたい。 (2) ・教職員対象学校教育自己診断「学校運営に教職員の意見が反映されている」の肯定的評価は47.6%で昨年度より17.4%上昇した。これは「idobata」で出てきた意見を実現可能なものから改善や修正を図ることや将来構想委員会で「総探」「授業改善」「広報」を中心に自由に意見を出し合いながら学校の課題について検討していることなどが要因であると考えられる。残念ながら目標の数値に届かなかったが十分な成果が出ており、次年度も継続して取り組みたい(○) ・教職員対象学校教育自己診断「教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある」の肯定的評価は35.7%で昨年度の数値より10%向上したものの目標の数値には届かなかった。教職員の意見を丁寧に吸い上げながら学校運営を進める必要がある(△)
4	保護者・地域と協力した学校づくり	(1) PTA活動の充実と地域との交流 ア PTA参加や地域交流の活性化 (2) 広報活動による本校教育に対する理解の促進	(1) ア ・保護者と連携した教育活動の一層の促進を図るため、実行委員会を中心に、PTAの西高祭等行事への積極的参加、PTA主催社会見学、PTA広報紙などの活動の充実を推進する。 ・地域や他校種などと連携した取組みを計画し、イベント等への参加などの要請があれば、積極的に協力して交流を図ることで、本校の教育活動に協力していただく。 (2) 機会あるごとの校長ブログの更新、HP記事、公式インスタグラムによる最新の教育活動状況の情報、生徒が活躍する学校説明会の開催、アートスタジアムなどの行事やイベントに関する特色あるポスターちらしの配付などを通して、保護者や地域の方々などに本校に対する理解を深めていただく。	(1) ア ・保護者対象学校教育自己診断アンケート「PTA活動の活発さ」の肯定的評価 50%以上 [45.1%] ・教職員対象学校教育自己診断アンケート「学校の地域等との連携の積極性」の肯定的評価 40%以上 [32.6%] (2) ・校長ブログの更新50回以上の維持 [65回] ・学校説明会アンケートでの生徒活躍項目の肯定値 50%以上 [―] ・保護者対象学校教育自己診断アンケート「教育情報提供」の肯定的評価 70%以上 [68.7%]	(1) ア ・保護者対象学校教育自己診断アンケート「PTA活動の活発さ」の肯定的評価は45.9%で微増に留まり、目標を達成できなかった。PTA活動は少しずつ活発になってきているものの、負担感を抱く保護者も依然多く、PTA活動についての広報活動が必要である。(△) ・教職員対象学校教育自己診断アンケート「学校の地域等との連携の積極性」の肯定的評価は45.2%と10%以上の数値の向上が見られ目標を達成することができた。しかし、今年度の取り組み内容の割に数値が向上していない点については今後の検討課題である。(◎) (2) ・校長ブログの更新は79回(◎) ・学校説明会参加者によるアンケートでは、学校の印象について、90%を超える参加者が肯定的な回答であった。今後も生徒会執行部や希望する生徒に、学校生活の様子の説明や施設見学の案内をさせることを継続したい。(○) ・保護者対象学校教育自己診断アンケート「教育情報提供」の肯定的評価は69.0%と微増に留まり目標の数値には届かなかった。保護者との連絡ツールだけでなく、学校HPや公式インスタグラムなどでも、今まで以上に教育情報の提供を行う必要がある。(△)